

震災の経験と教訓を伝える — 仙台の防災・減災を世界へ

私たちの経験を世界の防災に生かすために

地震、洪水など大きな災害は東日本大震災以降も世界中で起こっています。震災時の支援への感謝とともに、将来の防災・減災につなげるため、市では被災状況や復旧・復興の過程など、震災の教訓や知見を国内外に伝える取り組みを行っています。せんだい3・11メモリアル交流館や震災遺構仙台市立荒浜小学校を始め、南蒲生浄化センター

「震災遺構仙台市立荒浜小学校」を見学した感想をお聞きしました



地域津波研修センター・津波博物館
ブリヤンティ・パ
スケール・ハン
ディさん（スリランカ）

震災の爪痕を目の当たりにして悲しくなりましたが、荒浜小学校に避難した子どもたちが助かったことはうれしく思いました。私たちの博物館でも、日本で起こったことや被災者の経験を伝えていきたいと思えます。



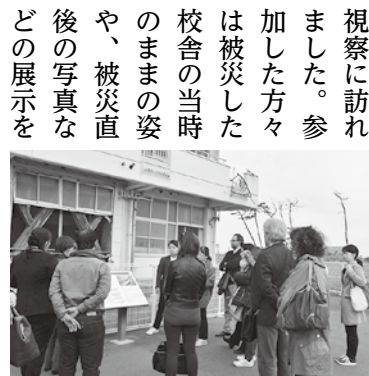
リスボン市立博物館副館長
パウロ・アルメイダ・フェルナンデスさん（ポルトガル）

ポルトガルでは250年以上大地震が起きておらず、地震の知識や経験が失われているため、私たちはそれらをよみがえらせる取り組みを行っています。日本では、個人の震災体験がその後の活動に生かされており、参考になると感じました。

海外からの視察

11月1日には、外務省や独立行政法人国際協力機構（JICA）に招かれたスリランカやポルトガルなど7カ国の方々が、震災遺構仙台市立荒浜小学校の

11月1日には、外務省や独立行政法人国際協力機構（JICA）に招かれたスリランカやポルトガルなど7カ国の方々が、震災遺構仙台市立荒浜小学校の



問い合わせ
防災環境都市推進室
☎214・8098、
FAX214・8497

被災地を訪問して学ぶ

視察に訪れました。参加した方々は被災した校舎の当時のままでの姿や、被災直後の写真などの展示を見学。津波の威力や脅威を感じさせる展示に涙ぐむ姿も見られ、職員の説明に聞き入ったり、熱心に質問したりしていました。

実際に被災地を巡り、現地の復興状況や防災の取り組みについて学ぶ「被災地ツアー」も各地で行われています。11月に行われた世界防災フォーラムにおいても、外国人参加者を対象に仙台市や市近郊の沿岸部などを訪問するスタディーツアーが行われました。市では、今後も国内外に向け防災・減災に関する知識や経験を伝える取り組みを実施していきます。

知って役立つ！ ワンポイント防災講座

年末の防災大掃除

今年の年末には、大掃除と併せて「防災大掃除」も行いましょう。

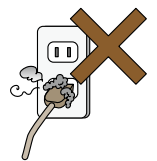
①コンロ周りやグリル、換気扇の油汚れの拭き取り



油汚れは、着火すると大変危険です。

②コンセント周りのほこり取り

コンセントについたほこりは、ショートして火事につながることがあります。



③不要な物の整理

物が多いと地震の時に崩れたり、火が付くと燃え広がったりしやすくなります。スッキリして安全に新年を迎えましょう！

問減災推進課 ☎214・3109、FAX214・8096

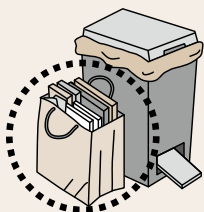
ごみ減量・分別の豆知識



ワケアップ! 仙台

「That's(ざっつ)かみ!」

年末の大掃除で多く出やすい紙類を、家庭ごみで捨てていませんか？ カレンダーやプリント紙から、お菓子の箱や封筒・メモ用紙まで「雑がみ」として他の紙類と一緒に出すことができます。雑がみは大きさが異なるので、紙袋にまとめて十字にしばって、集団資源回収や紙類定期回収、資源回収庫へ。



ごみ箱の隣に紙袋を置いておくと、雑がみを分けて入れられて便利です。

問家庭ごみ減量課 ☎214・8229、FAX214・8277